



2月

パストラル尼崎

如月

No.164, 2026(R8)年1月25日

〔編集・発行〕

パストラル尼崎

尼崎市潮江1丁目10-2

Tel. 06-6493-0521

Fax. 06-6493-0301

発行責任者：竹田 恵之

◆二月の歳時記◆

『国内初の電車、京都を走る』

明治二十八年二月一日、国内初の電車が京都を走りました。京都といえは伝統文化が今も脈々と息づいている街ですが、その歴史を辿ると、イメーシとかけ離れた「京都人」のダイナミックさに驚く事がよくあります。あの古刹、南禅寺の境内を貫くローマ風の「水路閣」は代表的ですが、明治に入り、天皇が去り元気を失くした京都を「遷都によって寂れた第二の奈良にするな」とのスローガンの下、様々な事業が計画されます。その中のひとつ、国内初の電車に湧く当時の京都の様子をご紹介します。



『二月一日、数十発の花火を合図に日本最初の市街電車が走り出した。雨にも拘らず乗客が長蛇の列を作り二台の電車が伏見・京都間を往復。沿道には国旗がはためき多くの見物客が詰めかけた。電車の速度は駆け足程度だったが、座席はビロード製で五個の電灯が輝いていた。ただ運転台はむき出しで雨の日など大変だったようだ。モーターはオーバードライブしやすく真夏には作業員が団扇で扇いだ。また送電は京都の蹴上水力発電所からだったが、天候悪化や故障でよく運休した』当時の人々の興奮や困惑した様子が伝わってきますが、何より驚いた記述があったので併せてご紹介いたします。

『乗務員は運転士、車掌、そして「先走り」といわれた少年がいた。年齢は十二歳〜十五歳。お揃いの法被を着た先走りの仕事は事故が起こらないように注意を促す事。その方法は路面電車の九メートル先を、昼間は赤旗を振って、夜間は赤ちようちんを持って走るというものだった。先走りは路面電車が人通りの多い区間に差し掛かると、赤い旗を手に電車から飛び降りて走り出す。』

「電車がきまつせー! 危(あぶ)のおまつせー!」

こう叫び、区間が過ぎるとまた電車に飛び乗り次の場所まで待機。危険な橋の上はもちろん、夜間は赤ちようちんを手に「全区間」車両の前を走った。雨の日には土の道路で法被は泥まみれ、夏は汗だく、冬は鼻水を垂らし走る先走りの仕事は過酷を極め、時には電車の轢かれる痛ましい事故もあった。掲載の写真には、雑踏の中、電車の前を走る少年(中立売七本松付近)が写っています。のちに取材した作家の鳥越氏によると、殆どの先走り経験者は口を閉ざし取材に応じなかったとか。この制度は十年ほど姿を消します。国内初というルール作りの中で起こったひずみの様な制度は後にも先にも「京都」だけでした。

麦汁の香り、今も記憶に・・・

≪神戸新聞より≫昭和から平成にかけてJR尼崎界限は別世界だった。工場の煙突が煙を吐き、労働者が行き交う。周辺には多くの個人商店、少し離れると昔ながらの長屋が密集する下町があった。ひときわ目立つ「キンビール」の大看板。27000㎡の広大な敷地を持つ「キンビール尼崎工場」がそこにあった。ビールの瓶詰め担当だった永田さんは、工場内の独身寮に住んでいた。広い敷地内は自転車で移動。醸造や品質管理などの建物がひしめき、迷子になる事も。「尼崎駅に着くと、麦汁の独特な匂いがして『帰ってきたな』と感じた」と懐かしむ。また 同工場は地域の住民らに落語やコンサートなどを楽しんでもらおうと「麒麟亭」を開催。阪神・淡路大震災では被災者に飲料水を提供し、工場内の浴場も開放した。清涼飲料水の製造を担った中本さんは、工場の門の近くには古い居酒屋がいくつもあり、仕事終わりの顔見知りや住民であふれていた。「銘柄は、もちろんキンビール」と笑う。今や住みやすい街No.1など脚光を浴びるJR尼崎界限。最後に記者がこんな文章で結んでいます。「まちの発展は喜ばしい。ただ住民が助け合う下町だったことも地域の一つの歴史。その中心にキンビールの工場があったんだと思う。新しい住人にも、この土地に労働者の汗とビールの香りが染み込んでいることを知ってほしいと思っている。」

令和7年度

パストラルシニア大学

今年度も多彩な講師をお迎えし、充実した内容でお届けしています。講師陣からその受講姿勢を絶賛されている皆さま。今年度も是非ご参加下さい。

***毎回フロントにお申込み下さい。**

***当日は、学生証も忘れずに!**

第9回

『おまえの親になつたで!』

・日時:2月20日(金)14時

講師

カンサイ塗装工業(株)日之出塗装工業(株)

代表取締役 **草刈 健太郎 氏**



「なんで妹を殺害された俺が…」被害者遺族でありながら、加害者の更生支援を始めた草刈氏。裏切られる事は日常茶飯事。加害者と被害者の間で揺れながら、心を鬼に、仏にして…壮絶な日々。なぜ、草刈氏は手を差し伸べる事を諦めないのか…。